

【報告 7】

令和 6 年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価等について

【報告 7-1】

令和 6 年度地域公共交通確保維持改善に関する自己評価（及び地域公共交通計画の評価結果） 概要（全体）

【報告 7-2】

令和 5・6 年度地域公共交通確保維持改修事業の二次評価について（通知）

【報告 7-3】

二次評価に対する中津川市の対応

令和6年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価
(及び地域公共交通計画の評価結果) 概要(全体)

中津川市公共交通会議 (中津川市)

平成20年6月4日設置

令和3年6月18日 フィーダー系統 確保維持計画策定

令和4年1月20日 中津川市地域公共交通計画へ移行
(計画期間：平成30年4月～令和9年3月)

令和7年1月17日 令和6年度評価結果送付

評価対象の地域公共交通確保維持事業
・地域内フィーダー系統確保維持国庫補助金

1.【Plan】協議会等を目指す地域公共交通の姿

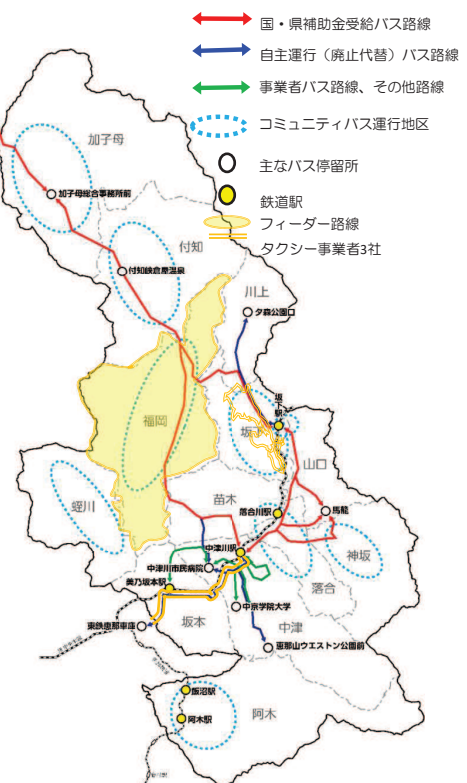
2

中津川市の地域公共交通を取り巻く課題

- ①利用者の減少で**地域公共交通網の維持が困難**に
 - ✓ 人口減少・高齢化(国調△2,313人、高齢化率32.9%)
 - ✓ 東濃鉄道(株)が市内から撤退
 - ✓ 路線により利用の差が激しい
- ②誰もが**わかりやすい公共交通**となっていない
 - ✓ バスによるおでかけ情報発信が不十分
- ③**運転手不足**で地域公共交通網の維持が困難に
 - ✓ 運転手高齢化、現役世代引退後に労働力不足の恐れ

中津川市地域公共交通計画(2022.1改定)

- 基本方針
 - ✓ **住んでよかった、住んでみたい街に**
- 目標
 - ✓ 住み続けられる街に
～定住を支える公共交通
 - ✓ 来てよかった、また来たい街に
～観光と利用促進
 - ✓ 運転手不足解消に向けて
～誰もが活躍する街に
- 期間
 - ✓ 2018年度～2026年度までの9年間



目指す姿とは 利用者を確保し地域公共交通網を維持。公共交通で安心して移動できる。そして…
いつまでも定住できる街に！住みたくなる街に！

■ 地域公共交通計画に基づいて実施する20事業

目標	計画で掲げる主な事業
①定住を支える公共交通	高校生バス通学支援、地域公共交通の運行継続、明知鉄道の運行支援、安全安心なバス停環境の整備 など
②観光と利用促進	公共交通を使った市内観光の推進、おでかけ情報の発信、インターネットによる経路検索の充実 など
③運転手不足の解消	運転手採用相談会 など

■ 2023-2024年度に実施した主な取り組み

★大集合！はたらくのりもの広場

②利用促進 公共交通に親しむ機会を創出！

- 子ども連れの親子をメインターゲットに、バス、タクシーの運転席の乗車体験、写真撮影ができるイベントを実施。
- 公共交通をPRするグッズの配布、事業者による求人募集も行った。

実績

令和6年10月6日（日）に実施（10月六斎市の開催日）
市内交通事業者（4社）が協力
228家族 684人が来場



今後

アンケートから、「子どもが喜んだ」「今後もやってほしい」という意見が多かった。
イベントの内容や開催場所を検討しながら、**今後も定期的なイベント**としたい。

★神坂地区コミュニティバスの利用増！

①定住を支える 通院・買い物に便利な路線に！

- 北恵那バスの迂回運行により、一時的に**神坂地区から市街地に向かう公共交通がなくなる**。
➡神坂地区コミュニティバスを令和6年1月に**神坂地区と落合地区を繋ぐ路線に再編**。
➡落合診療所までの利用により、**利用者が急増**した。
- 地域の声を聞きながら、4月から帰り便も新設。
より**利用しやすい路線に再編**した。

実績

R4年度	R5年度	R6年度
6人	0人	81人

※バス事業年度（10月～9月）

今後

今後も地域の声に耳を傾けながら、ニーズのある目的地の設定、利用しやすい時間帯の設定等、柔軟に対応していく。
神坂スマートIC開通後も、地域の公共交通として維持していく。

急増



■ 地域公共交通計画における評価指標の考え方

- ✓ 地域公共交通計画に基づく各種事業実施を通じ、
 - ①**いつまでも中津川市に住み続けられる**（高校生が自宅から通うことができる）
 - ②**住民や来訪者による公共交通利用者を確保**することを定量的に示す評価指標を設定している。
- ✓ 毎年度、評価数値に対する実績の評価、考察を行う。

■ 地域公共交通計画における定量的な評価指標

定量的な評価指標		①北恵那バス路線沿線地区内の高校生バス通学割合	②住民1人あたりの公共交通年間利用回数
基準年度	2021年度	25.3%	6.7回/人
目標年度	2026年度	25.3%以上	6.7回/人以上
実績【評価】	2023年度	26.0%【達成】	8.8回/人【達成】
	2024年度	25.5%【達成】	9.6回/人【達成】
参考 ※地域公共交通網形成計画目標値	2016年度	30.6%	8.6回/人
考察		- 加子母、付知地区において保護会会の定期購入者の割合が減っている（41.5%⇒34.6%）。一方、保護会会以外の定期購入数は増加（55⇒66）。 - 定期代が家計の大きな負担になっていることも考えられるため、補助金増額等の支援を今後検討していく。	- 観光客が全体的に増加しており、馬籠線の利用者が約3万5千人増加しており、観光客利用が増えている。欧米豪の観光客が戻ったことに加え、アジアの観光客が増えたことが原因だと推測される。 - 総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線や、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。

3.【Check】計画の目標の達成状況とその理由についての考察

5

■ 目標達成状況についての考察（路線別の事業評価概要）

区分	（上段）利用人数、（下段）達成率			主な考察・備考
	2021(基準)	2023(実績)	2024(実績)	
民間路線バス （補助系統）	253,025 -	307,675 121.6%	339,753 134.3%	○新型コロナウイルス感染症の5類移行後、利用が堅調に戻っているため前年比増加率の増加幅は減少しているが、 利用者数は全体的に増加している。 ○観光客が全体的に増加しており、 馬龍線 の利用者数が 約3万5千人増加 している。 △総合病院、地域診療所への通院により、加子母市民病院線、恵那線（市民病院）の利用者が増加している。
民間路線バス （非補助系統）	154,995 -	208,388 134.4%	226,129 145.9%	
自主運行バス （廃止代替バス）	49,621 -	68,050 137.1%	63,290 127.5%	○小学生や高校生が通学、帰宅に利用できる便を設定した地区（坂下・阿木）では、 学生の利用により 、堅調に推移している。 ○ 通院・買い物ができる路線に再編 した神坂地区では、 利用が急増 した（0人⇒81人）。 ○チラシの全戸配布によるPR、区長会での試乗、サロンへの移動利用等、 利用の機会を創出し 、全体的に利用が増えた。 △通学利用がある地区とない地区では、利用の差が激しい。 ×頻繁に利用していた方が利用しなくなる。（ 利用者の高齢化 。認知症、施設入所、死亡など）
自主運行バス （コミバス）	19,623 -	22,062 112.4%	23,453 119.5%	
明知鉄道乗車数 （阿木・飯沼駅）	35,352 -	50,735 143.5%	57,305 162.1%	○新型コロナウイルス感染症の影響により約68,000人から約35,000人まで利用が減少したが、5類移行後回復しており、 コロナ前の約8割にまで回復 。 ○令和4年度から高校生通学バス補助金の拡大により、阿木地域の定期利用者が増えた。
合計	512,616	656,910	709,930	

4.【Act】計画目標の達成に向けた今後の取組方針 の作成

6

コミュニティバスの利用増加

楽しいおでかけをPRし、コミュニティバスの利用に繋げる

現状

- 新型コロナウイルス感染症拡大前と比べて、コミュニティバスの利用は回復。
- 通学利用の定着**が利用回復の要因。

課題

- 通学便がない地域においては、利用が低調。
⇒**日中の時間帯に利用してもらう仕組み**が必要。

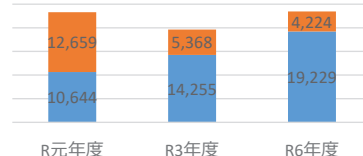
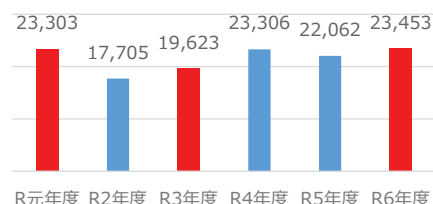
対応

- 落合地区、福岡地区において、無料キャンペーンの実施、**おでかけレポートリー**を作成。
- キャンペーン期間中は、**一時的**な利用増加に繋がった。特に落合地区は地域の関心度も高く、団体利用に繋がった。
- その後は**利用は落ち着いてしまったものの、新規利用獲得の一助**になった。

落合	R5年度	R6年度	福岡	R5年度	R6年度
9月	41人	43人	9月	41人	56人
10月	45人	156人	10月	55人	61人
11月	29人	48人	11月	35人	47人

今後

- 無料キャンペーン、おでかけレポートリーの作成・発信を今後も行い、少しでも利用増加に繋がる取り組みを続けていきます。
- 地域の声に耳を傾け、ニーズの高い目的地の設定、路線バスとの円滑な乗り継ぎができるよう、適宜再編していきます。



■ 通学便がある地区 ■ 通学便がない地区

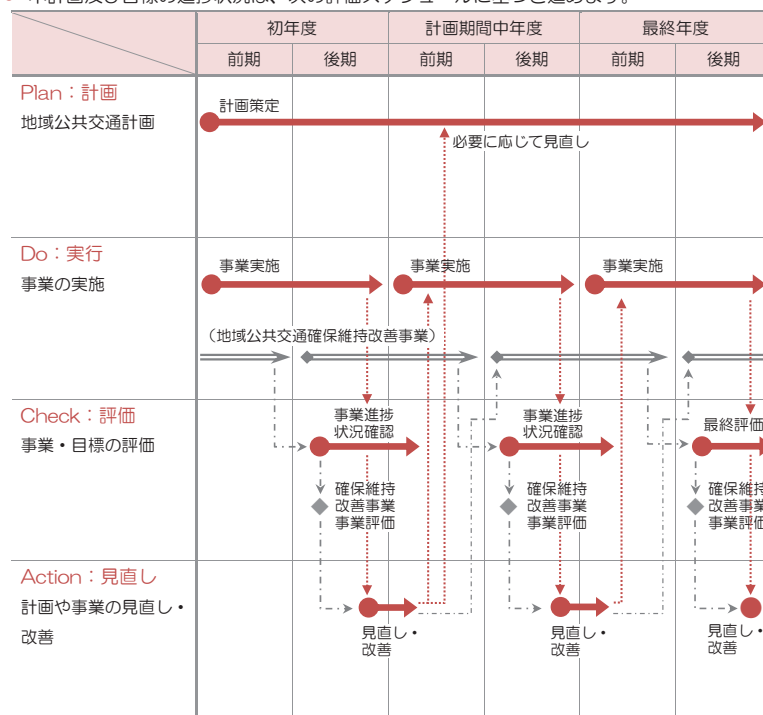


年度	二次評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
前回	・コミュニティバス無料定期券の配布について、その後の行動変容に繋がった等の効果検証をし、活用することを期待します。 ・落合地区コミュニティバスの再編について、ニーズの高い目的地や乗り継ぎの円滑につながることを期待します。 ・コミュニティバスの利用増に向けて、各地区の魅力も合わせてPRすることを期待します。	・今回も無料キャンペーンを行い、期間後の利用推移から、一定の新規利用に繋がったことを確認。合わせてアンケートを実施しました。 ・地域と協議し、ニーズの高い目的地を追加し、新たに路線バスに乗り継ぎできるようバス停を設置しました。 ・当市のコミュニティバスのメインターゲットは地元住民であることを踏まえ、地域の魅力ではなく、「コミュニティバスを使ったおでかけの仕方（おでかけレポーター）」を合わせてPRしました。	・アンケート結果から、現在の満足度、ニーズを確認。今後の再編に活かします。 ・ニーズの目的地が好調に利用されていることを確認しています。今後も利用状況を注視しながら、目的地の要望があった際は柔軟に対応してまいります。 ・今後も各地域に合ったおでかけレポーターを提案していき、コミュニティバスの利用増を図ります。
前々回	・福岡地区及び蛭川地区の路線の見直しを行い、利用目的や利用したい施設等ニーズに合わせた公共交通に再編したことを評価します。 ・官民共同で新たなモビリティサービス「付知bin」の社会実験を行い、自動運転など新たな輸送サービスにつながる取り組みを行っていることを確認しました。	■コミュニティバスの再編 ・各地域の実情に応じ、ミーティングポイントの新設、廃止など、柔軟に対応しました。 ■自動運転「付知bin」 ・10月18日～29日に実証実験を行い、延べ617人の利用がありました。	■コミュニティバスの再編 ・今後も各地域の運行状況を注視し、適宜路線の改変、バス停（ミーティングポイント）の設置及び廃止を検討します。 ・コミュニティバスのおでかけレポーターを地域ごとに作成、PRするなど、利用者数の増加を図ります。 ■自動運転「付知bin」 ・既存の公共交通との連携の可能性を検討します。

※前回：令和6年3月21日、前々回：令和5年3月10日

■ 地域公共交通計画・目標の評価スケジュール及び直近の公共交通会議開催状況

- 本計画及び目標の進捗状況は、次の評価スケジュールに基づき進めます。



【公共交通会議実施状況】

第1回 令和6年6月12日

議題 1

落合地区コミュニティバスの再編について

承認

議題 2

生活交通確保維持改善計画について

承認

第2回 令和6年1月15日

議題 1

地域公共交通確保維持改善事業に関する自己評価について

承認

各回の冒頭には、各交通事業者から現在の状況に関するフリートークを実施。
⇒市内交通事業者が抱える問題、悩みを共有する場になった。

中運交企第163号
令和7年3月27日

中津川市公共交通会議
会長 今井 亨 殿

中部運輸局長
(公印省略)

令和5・6年度地域公共交通確保維持改善事業の二次評価について(通知)

日頃より国土交通行政にご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、先般報告された標記事業にかかる一次評価について、これを基に二次評価を行ったため、別紙のとおり通知します。

なお、二次評価結果は協議会等において共有するとともに、次年度以降の計画等に反映いただくようお願いいたします。

【問合せ先】
中部運輸局交通政策部 交通企画課
TEL:052-952-8006

自治体・協議会名	中津川市公共交通会議
評価対象事業	地域内フィーダー系統

二次評価結果

評価できる取組

- ・公共交通に親しむ機会として、イベントを実施し、乗車体験や公共交通関連グッズの配布を行い、利用促進に向けた各種取組を実施されたことを確認しました。
- ・地域の声をもとに神坂地区コミュニティバス路線の再編を実施され、令和6年度の利用者が増加したことを確認しました。
- ・コミュニティバスを利用した「おでかけレパートリー」の発信により、利用者の増加に繋がったことを確認しました。

期待する取組

- ・地域住民の声をもとに路線を再編したことにより、利用者の増加に繋がっているため、今後も地域の声に耳を傾け、各種交通サービスの円滑な乗り継ぎが出来るよう交通ネットワークの構築に向け施策を実施されることを期待します。
- ・計画目標の達成状況とその理由についての考察に当たって、データに基づく分析が実施されることを期待します。
- ・コミュニティバスを利用した「おでかけレパートリー」について、更なる利用拡大の取組を期待します。
- ・地域間幹線系統である坂下線の輸送量が補助要件基準の15人を下回っている状況であることから、当該系統の存続が危ぶまれる状況であると言えます。引き続き、現状の把握に努めるとともに、岐阜県、運行事業者等関係者と連携して更なる対策を早急に講じるようお願いいたします。

二次評価結果に対する中津川市の対応

・地域住民の声をもとに路線を再編したことにより、利用者の増加に繋がっているため、今後も地域の声に耳を傾け、各種交通サービスの円滑な乗り継ぎが出来るよう交通ネットワークの構築に向け施策を実施されることを期待します。

→引き続き地域住民の声に耳を傾け、ルート再編やバス停の移設、新設等利用者の増加に繋がられるよう努めます。

・計画目標の達成状況とその理由についての考察に当たって、データに基づく分析が実施されることを期待します。

→利用状況の考察に当たっては具体的な数値を用いて分析しています。

・コミュニティバスを利用した「おでかけレポーター」について、更なる利用拡大の取組を期待します。

→利用者が減少傾向にある地区へ拡充できるよう検討します。

・地域間幹線系統である坂下線の輸送量が補助要件基準の 15 人を下回っている状況であることから、当該系統の存続が危ぶまれる状況であると言えます。引き続き、現状の把握に努めるとともに、岐阜県、運行事業者等関係者と連携して更なる対策を早急に講じるようお願いします。

→新規利用者の獲得に向け、ルートの再編を行います。